飛騨一之宮ものがたり

１．ご利用にあたって

「飛騨一之宮ものがたり」は、次の三つの資料で構成します。

（１）印刷資料**「飛騨一之宮ものがたり」**

小・中学生が地域学習や飛騨一之宮への研修旅行の計画や実際の旅行に持参できる児童・生徒用テキストとして利用できます。児童・生徒用の資料は、全体の資料の中から研修旅行で参考になると考えられる項目を選択し、さらに、各項目の資料について抜粋し印刷しました。

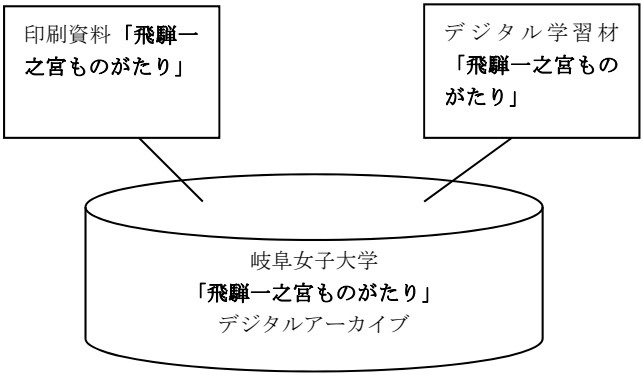
（２）デジタル学習材**「飛騨一之宮ものがたり」**

児童生徒の学習用のデジタル学習材として、利用していただけるように構成しました。タブレット PC（iPad）で見ていただくことができ、通信環境がなくても動画や静止画を拡大しながら見ていただくことができます。岐阜女子大学が保管している資料を全て提供すると、大変な量になりますので、その中から一部を選択し、提供いたしました。

（３）**「飛騨一之宮ものがたり」**デジタルアーカイブ

多様な関連映像・資料については、デジタルアーカイブを構成し、その中から先生方に必要な情報を選んでいただき、テキスト等を作られるときに利用していただけるようにしました（詳細は http://hkl.gijodai.ac.jp/ から）。

また、先生方のご指導のもと、児童生徒がこの**「飛騨一之宮ものがたり」**デジタルアーカイブを活用していただくことも可能です。



わたしたちの飛騨一之宮

土地と気候

とちときこう

飛騨一之宮地域は、日本列島の中央部、日本の屋根とも呼ばれる3，000メートル級の高い山がそびえる飛騨山脈をのぞむ面積52．17平方キロメートルの地域です。 気候は内陸性気候で、夏と冬との温度差が大きく、日中は暑く、朝夕は涼しいという特徴があります。春と秋には、夜の気温がひどく下がり、霜のおりることもあります。

飛騨一之宮の生い立ち

ひだいちのみやのおいだち

数千年前、遠く海辺から山の幸を求めひたすら神通川をさかのぼってきた縄文人が、ついにたどりついた地がこの分水嶺である位山のふもとでした。人々は亀ヶ平の丘に小さな村を作りました。さらに数万年前、旧石器時代人が姿をあらわしたころ、この一之宮はすべて湖の底でした。お旅山は島のように水面に浮かんでいたと考えられています。

動画：飛騨一之宮の今と昔（1）（インタビュー「山腰曠氏」）

6:12min

岐阜県高山市一之宮町の「名前の由来」「今も受け継がれている伝統文化」「昔と変わらず大切にしているもの」「今と昔で一番変わったこと」「今と昔の町の様子」について学べます。これは山腰曠氏（宮村史著者）にインタビューしたものです。

動画：飛騨一之宮の今と昔（2）（インタビュー「山腰曠氏」）

14:26min

岐阜県高山市一之宮町の「他の地域にはない特徴」「一之宮に住む人の名字や町の地名の特徴」「一之宮の郷土料理」について学べます。これは山腰曠氏にインタビューしたものです。後半は、山腰曠氏と森瀬一幸氏（岐阜女子大学教授）との対談になっています。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

２．著作権について

「飛騨一之宮ものがたり」は、各資料提供者から、学校教育利用として許諾を得て収集したデータを使用しています。そこで、文化庁で示されている学校教育での自由利用を守って利用してください。

３．自由利用マークについて

「学校教育のための非営利目的利用」OKマーク

学校の様々な活動で使うことを目的とする場合に限る（非営利目的に限る）（授業だけでなく、部活動、クラブ活動、教員の研究会なども含まれる）。

学校教育OK　利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。
www.bunka.go.jp/jiyuriyo

①著作者の名前が表示されている場合は、利用に際してもそれを記述してください。
②著作者の社会的な評判や名誉を傷つけるような使い方はしてはいけません。

４．ＱＲコードについて

タブレット端末やスマートフォンの普及に伴い、インターネット等での情報アクセスが簡単に行えるようになってきました。本冊子でも、各資料項目の左端に、QR コードを掲載しています。

タブレット端末やスマートフォンをお持ちの方は、専用の読取りソフトを起動し、内蔵カメラを使用して読取りを行なってください。各項目の詳しい内容が WEB ページで表示されます。

なお、ご利用にあたり、通信費が必要になる場合がありますので、ご注意ください。

（※通信費はご利用者でご負担ください。）

－ 目　次 －

ご利用にあたって …… 1
飛騨一之宮ものがたり …… 6

Ⅰ　わたしたちの飛騨一之宮

1．土地と気候 ……10
2．飛騨一之宮の生い立ち ……10

Ⅱ　水

1．宮川の源流と分水嶺
（1）水のふるさとを訪ねて ……14
（2）水のあるくらし ……14
2．川のゆくえ
（1）源流から日本海 ……15
（2）川の移り変わり ……15
3．宮川と昔話
（1）座禅石 ……16
（2）バイガモ（梅花藻） ……17
4．「あじめ」を守る ……17

Ⅲ　木

1．ツメタの大イチイ ……20
2．水無神社の大杉 ……20
3．臥龍桜 ……21
4．松
（1）苅安峠の松 ……22
（2）ヌクイ谷の赤松 ……22

Ⅳ　道

１．位山古道

（1）位山古道の整備 ……24

（2）位山古道の地図 ……25

（3）位山匠の道 ……26

２．ＪＲ ……27

３．国道41号線

（1）宮　峠 ……28

（2）宮トンネル ……28

Ⅴ　祈り

１．飛騨一宮水無神社

（1）起源と祭神 ……30

（2）歌碑 ……30

（3）歴史 ……31

（4）笏木の献上 ……31

（5）例祭神事 ……31

２．飛騨一之宮の祭り

（1）神事芸能の伝承 ……32

（2）飛騨生きびな祭り ……32

（3）闘鶏楽 ……33

（4）神代踊 ……33

（5）獅子舞 ……34

３．大幢寺 ……37

４．巨　石 ……37

Ⅵ　くらし

1．むかしのくらし

(1) 縄文時代の遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

(2) 両面宿儺 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

2．飛騨一之宮の伝統と技

(1) わたしたちの町の伝統工業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

(2) 飛騨の宮笠(一位笠) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

(3) 伝わる技術とささえる条件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

(4) 伝える技術と問題点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

（付録）

◆位山古道散策マップ

飛騨一之宮ものがたり

飛騨一之宮ものがたり

飛騨一之宮は、この地域に名高い位山の麓に広がり、**水・木・道・祈り**などをくらしのより所としながら、豊かに里の歴史を積み重ねてきました。

飛騨の人々の生活に深くかかわる宮川が流れ出すこの地域には、水温が年間 14℃前後の清流のみに育つバイカモ（梅花藻）が見られ、この地のシンボルの一つともなっています。**［水］**

この地域の山々や里のところどころに巨木（大きな木）が残されています。国指定天然記念物の樹齢 2000 年の「大イチイ」、樹齢 1100 年の大幢寺の「臥龍桜」などみごとです。 **［木］**

時代とともに、日本各地の文化が位山分水嶺の峠を越えて、高山町や北飛騨全体のくらしの礎（もとになるもの）を伝えてきた歴史があります。古くは苅安峠を越えた位山古道、新しくは宮峠を越えた国道 41 号線やＪＲ宮トンネルがあります。 **［道］**

都でも尊いと歌われた位山のふもとであるこの地には、古代より飛騨一宮水無神社がまつられ、飛騨はもとより富山県などの人々の厚い信仰は、今も長くたえることなく続いています。**［祈り］**

遅い飛騨の春、一之宮の人たちは、桜の里の花がいっぱいに咲くのを楽しみにしながら、水に恵まれた米作りや豊かな山林の木々の伐りだしの仕事に精を出すなど、長い歴史の時を生きてきたのです。 **［くらし］**

タイトルにある「ものがたり」ですが、これは「おはなし」という意味のほかに、フランスのことばで「歴史」という意味も込められています。これからも皆さんは、飛騨一之宮でいろいろなことを体験するでしょう。そのものがたりの一つひとつは、飛騨一之宮の歴史になります。いままでの飛騨一之宮のものがたりを知り、それが糧となり、これからも飛騨一之宮のものがたりが続いていくことを願い、このタイトルを名づけました。

水

宮川の源流と分水嶺

みやがわのげんりゅうとぶんすいれい

(1) 水のふるさとを訪ねて

宮川の清冽な湧水は、位山と川上岳を結ぶ峰と、それらを結ぶ尾根の裾地から流れ始めます。東や南の絶壁の裾山、下方から湧き出す水は、ツメタ谷となって渓谷の源流となります。そして川上岳の山のふもと近くの、なだらかな丘地の水を集めたヌクイ谷の温かい水と合流します。その流水が一之宮町の盆地までの源流・渓谷をつくりだしています。

(2) 水のあるくらし

人間の生活には、水と食料、住居や衣類などは欠くことのできない大切なものです。その中でも水源となった宮川は、古来から飛騨の人々の、生命綱でした。それぞれの用水路を通り、農業、防災、飲料水となって村人の生活を守ってきました。

川のゆくえ

かわのゆくえ

(1) 源流から日本海

中部日本の分水嶺であり神通川水系の最上流に位置する源流の里「飛騨一之宮」。そこに源を発する宮川は、古来より人々をはじめ、あらゆる命を潤し続けた母なる川なのです。

(2) 川の移り変わり

宮川の源流は、川上岳で、位山の餅谷と合流して宮盆地へ流れています。川上岳の北東の位山 1530mの尾根の下で渓流源流になります。手をつっこむと、夏真っ盛りの暑い陽ざしの中でも手を切るような冷たさで、古代に「ツメタ谷」と名づけられました。

動画：宮川源流 （自然：飛騨一ノ宮）

0:19min

岐阜県高山市一之宮町にある宮川源流の映像から源流の様子について学べます。一本の原生林から水が川へと流れていく様子がうつされています。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

宮川と昔話

みやがわとむかしばなし

(1) 座禅石

むかし、大幢寺を開かれた高山の雲竜寺の開山了堂真覚和尚が、寺の前にある座禅石に座ってお経を読むのを毎日のつとめにしていました。その座禅石は、今でも大幢寺の前に大切に保存されています。

（2）バイカモ（梅花藻）

飛騨一之宮町にはバイカモ（梅花藻）があります。このバイカモは平成１６年の台風でほぼ全滅しましたが地元住民の手で復活しました。（バイガモを守る会）

「あじめ」を守る

あじめをまもる

「あじめ」は、条鰭綱コイ目ドジョウ科アジメドジョウ属に属する魚で、日本固有種です。晩秋、伏流水中に潜り越冬します。越冬は群れとなって行われ、地中数メートルも潜ることがあります。産卵は越冬中に行われ、稚魚は親と共に翌年5～6月に姿を現わします。

木

ツメタの大イチイ

つめたのおおいちい

神通川・宮川の最も上流の場所にあるツメタ谷。「ツメタの大イチイ」は、約2000年も生きているとされ、日本中にある木々の中でも大変大きく、とても古い大イチイです。幹は一部が空洞となり、ヒメコマツやミズメなどの木々もついていますが、今も元気に葉を茂らせています。

水無神社の大杉

みなしじんじゃのおおすぎ

水無神社のお祭りは、年に50回ほど行われます。その内、主なお祭りだけでも年に16回もあります。（一之宮に住むみなさんの中には、何回も参加した人や、これから参加してみたいと思う人がきっと多くいることでしょう。）水無神社は昔も今も、村民そして飛騨の人々の心のよりどころとなっています。

臥龍桜

がりゅうざくら

岐阜県高山市一之宮町 206-2 臥龍公園内
ＪＲ高山本線、飛騨一ノ宮駅下車、徒歩１分

桜の里飛騨一之宮町のシンボルとして、国指定天然記念物「臥龍桜」があります。樹種は江戸彼岸桜で、樹高 15m、枝張 29m、目通りの周囲は 7.3mあり、推定樹齢は一千年余です。

動画：臥龍桜 （インタビュー「金岡勝一氏」：飛騨一之宮）

1:05min

臥龍桜について、金岡勝一氏へのインタビューから学べます。臥龍桜は、桜の里一之宮町のシンボルとして、国指定天然記念物とされています。樹齢は約1100年ほどです。名前の由来は、この桜の姿が、龍が臥している〈ねている〉様子に似ているからです。この桜は、台風などの幾度の生命危機を懸命な修復事業で乗りこえ、復活した壮大な姿で人々を楽しませてくれます。

松

まつ

(1) 苅安峠の松

苅安峠は、日本海に流れる神通川水系・宮川と太平洋に流れる木曽川水系・飛騨川との分水嶺がある峠です。苅安峠の松は、「苅安赤松」と呼ばれます。この赤松は、すらりとした木の形で、横に出る枝が少ないのが特徴です。これは建材としてとても価値が高いものです

(2) ヌクイ谷の赤松

一之宮町は、神通川・宮川の「源流の町」として知られています。その最源流部は、ツメタ谷とヌクイ谷だと言われています。その周辺の１４２４ha は、宮国有林と呼ばれており、以前は原生林に覆われていました。

道

位山古道

くらいやまこどう

萩原町山之口から位山峠を超えて宮村へ出る位山街道のことを、往古都に工匠として召され奉仕した飛騨の匠たちの通った道として、その哀歓に思いを込めて「位山古道」と呼んでいます。

(1) 位山古道の整備

位山古道は、東山道飛騨支路として敷設され、現代に至る道です。東山道飛騨支路は美濃の方県駅で「東山道」から分かれて飛騨支路になります。今も所々に残っている石畳の街道は、都から飛騨へと文化をつたえ、飛騨の文化をはぐくみ育てた道です。石畳は、平安時代頃のものと推定しています。

(2) 位山古道の地図

飛騨支路については、『続日本紀』に宝亀７年（７７６）に下留駅を開設したという記事があり、この頃には既に整備されていたと考えられます。

東山道飛騨支路
（位山街道）
飛騨国府
高山・・・石浦駅
山下
渡瀬
坂下
苅安峠
段
無数河
位山峠
山之口
和田
黍生峠
尾崎
あさん川橋
上呂・・・上留駅
下呂・・・下留駅
東山道へ
高山から京都まで、行きは 14 日、帰りは荷物が無いので7日で着いたそうです。
飛騨
越中
越前
近江
尾張
三河
遠江
大和
伊賀
丹波
山城
美濃
石浦
上留
下留
武義
加茂
可児
土岐
坂本
一井
宿原
岡知
新潟
馬津
河曲
安濃津
鈴鹿
飯高
山科
三尾
和田
篠原
清水
甲賀
朝明
板橋
墨俣
不破
関
長良
方県
尾張
岡村
鳥羽
山銅
渡津
(宮地)
(板築)
(宮志)
(新家)
(毎田)
(喜田)
(玉置)
(墨俣)
(土岐)
(墨俣

(3) 位山匠の道

日本の古代の道路が国の制度の中にはっきり位置づけられたのは、大宝元年（701）に制定された「大宝律令」という法律ができたときです。当時の東山道飛騨支路である位山古道の道筋は、現在の国道41号線ではなく、宮地域から苅安峠、位山峠を越え上呂へ抜ける道であったと考えられます。

動画：位山古道 （インタビュー「山腰曠氏」：飛騨一之宮）

0:19min

位山古道の歴史について、山腰曠氏へのインタビューから学べます。位山古道は、ほぼ直線の道のりで、今では、補整されているなどで少ししか残っていませんが、石畳の道を地域の人だけではなく、京都へと続く道として、古くから多くの人が利用していました。今現在でも一之宮の人たちに親しまれています。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

動画：位山古道の風景（自然）

1:05min

位山古道の様子を学べます。今では補正されたコンクリート道路の場所もありますが、昔の人も歩いていた石畳もきちんと残されています。昔の人も今と同じような景色を見ながら、この道を歩いていたかもしれません。この風景はこれからも大切にされて、伝えられていくことでしょう。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

ＪＲ

じぇいあーる

明治以来の飛騨の強い願いであった岐阜と富山を結ぶ高山本線は昭和９年にようやく全線開通しました。このことにより、飛騨はこれまでの牛馬車から大量輸送機関を得ることができました。この高山線の全通は、太平洋と日本海を結ぶ最短、最安ルートとなり、中部縦断の時間と距離、金銭を短縮する大きな意味をもっていました。

国道41号線

こくどうよんじゅういちごうせん

国道41号線は、名古屋市から富山市に至る一般国道で、JR高山線及び国道158号線とともに、飛騨地方の交通体系の重要な路線です。また、国道41号線は、ぶり街道、ノーベル街道 と呼ばれることがあります。

(1) 宮 峠

宮峠は、峠の南方斜面は緩やかですが、北側は急な斜面です。この峠を通る交通路は、天正(1573-1592)の末ごろ藩主であった金森長近によって開かれ、長い間、峠から北へ降りる道は、ふもとの水無神社まで直線的な急坂でした。しかし、明治以後改修され、昭和28年に2級国道155号線として発足し、昭和40年には一般国道となりました。

(2) 宮トンネル

宮峠は、飛騨の分水嶺の鞍部(あんぶ)にあり、交通の難所です。そこで、鉄道は宮トンネルで、久々野町と一之宮町を結んでいます。高山線で最長の2080mあります。国道41号線の宮峠トンネルは、宮高山バイパスと合わせて、平成15年度事業化された地域高規格道路「高山下呂連絡道路」の一部として指定されています。

祈り

飛騨一宮水無神社

ひだいちのみやみなしじんじゃ

所在地 岐阜県高山市一之宮町石原 5323
交通アクセス JR 東海高山本線 飛騨一ノ宮駅 （徒歩約 8 分）

(1) 起源と祭神

(2) 歌 碑

古くから、飛騨国一之宮として名高い神社です。始まりは神代（紀元前660年に即位した第1代の神武天皇がいたころ）より古くからあると伝えられていますが、詳しいことは分かっていません。

飛騨一宮水無神社は、明治の文豪島崎藤村の父・島崎正樹氏が、宮司を勤めていた神社としても有名です。明治7年11月13日水無神社宮司として赴任し、学問、詩歌の道にもすぐれ在任中高山中教院の教導職(中講義)として多くの若者を指導しました。

きのふけふ　しぐれの雨と　もみぢ葉と　あらそひふれる　山もとの里

正樹氏は、島崎藤村の『夜明け前』に登場する青山半蔵のモデルで、境内には、その歌を刻んだ石碑があります。

※島崎藤村：日本の詩人、小説家。本名は島崎 春樹（しまざき はるき）。信州木曾の中山道馬籠（現在の岐阜県中津川市）生まれ。

(3) 歴　史

歴史にあらわれるのは平安初期、貞観九年（867年）神位を授けられた記事にはじまります。中世、鎌倉時代には神社の領地は付近18か村に達し神主12人と盛んでしたが、戦乱にかかわって荒廃をみました。

(4) 笏木（しゃくぎ）の献上

この霊山である位山にはイチイ（一位：櫟）の原生林があり天然記念物とされています。位山は、平治元年（1159年）に朝廷に位山のイチイを笏の材料として献上した際、この木が一位の官位を賜ったことから木はイチイ、山は位山と呼ばれるようになったという説があります。

(5) 例祭神事

例祭は古くより陰暦8月15日に行われていましたが、明治以後は9月25日に行われ、最近では稲の収穫時が早くなったことや気象関係もあって、昭和36年式年大祭以後5月2日に改められました。

飛騨一之宮の祭り

ひだいちのみやみなしじんじゃ

(1) 神事芸能の伝承

伝統文化は、歴史のなかで常に時代に合わせた文化として現在まで継承されてきました。それはそれぞれの地域の発展と成長とともにその形を創造的に変え、今日に継承されてきています。飛騨一之宮地域文化も同様に、飛騨という地域の発展と共に創造的に変化しながら今日に継承されてきた伝統文化です。

(2) 飛騨生きびな祭り

飛騨生きびな祭りは、高山市一之宮水無神社で養蚕や農業の繁栄と女性の幸福を祈願し、1952年に始まったお祭りです。飛騨の雛祭りは、1か月遅れの4月3日に行われます。この日、飛騨一円の未婚女性の中から公募で選ばれた9人が平安時代の装束に身を包み、一之宮町内を行列します。

（3） 闘鶏楽

闘鶏楽は、古く江戸時代より伝わる飛騨独自の神事で、この飛騨一之宮の水無神社から飛騨一円に広まったと言われています。鉦鼓（鐘）を打ち鳴らす音から、通称「カンカコカン」と言われています。服装は、勇壮な鶏の絵を描いた白染めの着流し、帯は角帯を用い、白足袋・タグリ・紙緒草履に、一文字笠をかぶります。例祭で奉納されます。

（4） 神代踊

飛騨一之宮水無神社に古くから伝わる神事芸能は、無形文化財として、県指定を受けています。その中でも中核となるのは宮踊といわれる神代踊です。神代踊と称する踊りは、綾踊・白菅踊・髭踊・よれよれ踊・池田踊・天戸開踊の6つからなっています。

(5) 獅子舞

飛騨の各神社で奉仕される獅子舞には、主に振獅子（男獅子/ユタンの中で一人が獅子頭を舞わし、もう一人が後ろから二本の棒でユタンを支え、二人で舞う）と伊勢獅子（女獅子/幣と鈴を持ち、獅子頭をかぶって、一人で拍子に合わせて踊る）の2種類があります。水無神社に伝わる獅子舞も、振獅子と伊勢獅子です。

動画：飛騨一宮水無神社 （伝統文化：飛騨一之宮）

6:04min

岐阜県高山市一之宮町にある飛騨一宮水無神社の全体の映像が見られます。行ったことがなくても飛騨一宮水無神社の様子が分かります。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

動画：獅子舞 （民俗文化財：「一つ文字」）

2:43min

岐阜県高山市の民俗文化財である獅子舞の演目の一つ、「一つ文字」が学べます。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

動画：獅子舞 （民俗文化財：「幕の舞」）

高山市の民俗文化財である獅子舞の演目の一つ「幕の舞」が学べます。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

動画：獅子舞 （民俗文化財：「鈴の舞」）

7:09min

岐阜県高山市の民俗文化財である獅子舞の演目の一つ「鈴の舞」が学べます。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

動画：獅子舞 （民俗文化財：「高山」）

2:54min

岐阜県高山市の民俗文化財である獅子舞の演目の一つ「高山」を学べます。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

大幢寺

だいとうじ

高山市一之宮町 288　tel.0577-53-2033 JR 飛騨一之宮駅徒歩 5 分
宗派：曹洞宗　本尊：十一面観世音菩薩　円空仏：韋駄天

このお寺のご本尊の十一面観世音菩薩(じゅういちめんかんぜおんぼさつ)のことは、江戸時代の記録が残っています。そこには「奈良時代に行基が造った観音様(かんのんさま)であり、戦国時代の1580年に旅の行者がその観音様をこの大幢寺を開基した三木三沢大居士(みきみさわだいこじ)に渡された」とあります。観音様のお姿形は奈良時代のものとも、鎌倉時代とも言われています。

巨　石

きょせき

ご神体山(しんたいやま)として人間が文字で歴史を記す前から人々の信仰を集めている「位山」は、両面宿儺(りょうめんすくな)や高天原伝説の舞台の山であり、また代々天皇家へ笏木(しゃくぎ)を献上する山です。

このような歴史の息吹)を感じることができる位山の登山道に足を踏み入れると、私達の五感を揺るがすたくさんの大岩が点在しています。いわゆる「位山巨石群」です。

くらし

むかしのくらし

むかしのくらし

(1) 縄文時代の遺跡

数千年前、遠く海辺から山の幸を求めひたすら神通川を遡ってきた縄文人が、ついにたどりついた極まりの地、亀ケ平がこの分水嶺位山の麓であった。人々はこの亀ケ平の丘に小さなムラをつくった。

さらに数万年前、旧石器時代人が姿をあらわし始めた頃、この宮の地は全て湖の底であった。お旅山は島のように水面に浮んでいたのだろうか。ナウマン象が湖のまわりを歩いている姿が想像さ

(2) 両面宿儺

写真：宮村史より引用

数々の伝説を持つ土地、飛騨は、歴史の起こりも伝説に彩られています。日本の歴史を書いた古い本である日本書紀には、朝廷に逆らう怪物として描かれる両面宿儺ですが、飛騨地方では民衆を導いた英雄として崇められています。また神仏を崇め、悪神を退治して飛騨の人々を安心させてくれた恩人として信仰の対象になっています。

飛騨一之宮の伝統と技

ひだいちのみやのでんとうとわざ

(1) わたしたちの町の伝統工業

写真：飛騨一之宮観光協会 Web より引用

旧宮村の工業は、古くからある製材所を始め木製品工場、金属製品製造工場、縫製工場などがあります。地域に伝えられる伝統工業を継承していくことは、人々の努力が欠かせませんが、貴重な文化財を次代に残すという面でも重要です。このことが、地域に誇りと愛着をもたらし、地域共同体に果たす役割も大きいといえます。

(2) 飛騨の宮笠(一位笠)

写真：飛騨一之宮観光協会 Web より引用

旧宮村では、学校、役場、診療所、橋をかけるなどのさまざまな事業は、村有林から得られる収入に負うところが大きく、住民の負担はかるくなっていたのが特徴でした。木材を利用して作られる特産物に、宮笠・一位笠があります。

(3) 伝わる技術とささえる条件

この地で育まれた「伝統文化」の多くが、地域の人々の「伝えたい」「残したい」という強い願いのもと、現在まで受け継がれてきました。その技術を「今あるまま」残すために、映像や画像として記録・保存（デジタルアーカイブ）するという支援が大切となります。

(4) 伝える技術と問題点

地域に伝わる伝統文化は、今日に至るまでの数百年間受け継いできました。しかし、時代の変化にともない受け継ぐ側の人数が減少しているのが現状です。一之宮町に伝わる獅子舞も、継承が難しくなった時期もありました。今後も時代や環境の変化によって、受け継がれてきた伝統文化を人から人へと伝えることが難しくなることが予想されます。このままだと、何百年も前から地域の人々が「伝えたい」「残したい」という強い願いのもと、つないできた伝統文化を絶やしかねません。

◆位山古道散策マップ

N
スタート
ゴール
位山駅
位山神社
位山
位山林道
小坂田のイチイ
寺公民分館
大森神社
清瀬公民館
川原
小坂田川
みすたし
ゆ・ふれい
広場
夢くらぶ・カロリア
福祉センター
一之宮
公民館
宮中学校
宮小学校
一之宮
交差点
西宮神社
交差点
一之宮駅
一之宮
公民館
宮の森
宮の森
宮トンネル
宮
大杉
西宮一宮水無神社
白山神社
宮村駅前
宮村駅
宮村駅前
交差点
宮村公民館
宮村
公民館
宮村
郵便局
宮村
郵便局
宮村
郵便局

発　行：平成２４年１２月１８日　第１版

監　修：森瀬　一幸（岐阜女子大学）

執　筆：飛騨一之宮地域再発見デジタル教材 WG
中川　善夫（高山市立宮小学校校長）
上野　博隆（高山市立宮中学校校長）
武川　宏彦（高山市立宮小学校教頭）
瓜田　恵美（高山市立宮小学校教頭）
山腰　進　（高山市立宮中学校教頭）
坂田　浩一（高山市立宮小学校教諭）
水口　和也（高山市立宮中学校教諭）
水端めぐみ（高山市立宮小学校教諭）
苅安　幸恵（高山市立宮小学校教諭）
松嶌　杏奈（高山市立北小学校教諭）
松井久美子（高山市立東小学校教諭）
藤木　和子（高山市教育委員会）
保木　斉　（高山市教育研究所）

撮影・編集：久世　均・齋藤陽子（岐阜女子大学）
長慶寺香／阿部彩野／亀山直美／風見早千帆／坂下由華
市川明日香（岐阜女子大学）
二ノ宮のり／松井久美子／水端めぐみ／佐藤菜摘
反中彩乃／時國亜貴子／石原麻衣子／小倉　優／多田佑衣
片桐真紀／齋藤由吏／定岡祐希（岐阜女子大学）

参考文献：宮村史　通史編　１巻、２巻　　発行：宮村

協　力：高山市教育委員会・高山市役所一之宮支所
飛騨一之宮観光協会

なお、本冊子は、「若者による一之宮地域文化の再発見事業委託」により作成いたしました。